

平成30年度第1回北広島市図書館協議会議事録

日 時	平成31年2月21日(木) 午後7時
会 場	図書館2階 AV サロン
出席委員	舟橋会長・北川副会長・岡元委員・小島委員・工藤委員・穴澤委員・椿野委員
欠席委員	正木委員・伊藤委員・根上委員
市出席者	新谷館長・丸毛課長・蛭名主査・太田主任・吉川主任・大川司書

【開会：事務局】

ただ今より、平成30年度第1回北広島市図書館協議会を開催いたします。

本日は、委員7名の出席ですので、規定の過半数を超えており、本日の会議は成立していることをご報告いたします。

今回は委員の改選が行われて初めての会ですので、役員の選任議事の進行を、会長が決まるまで、私の方でさせていただきます。会議次第に従いまして進めさせていただきます。それでは簡単に自己紹介をお願いいたします。

【自己紹介】

岡元委員→北川委員→舟橋委員→工藤委員→穴澤委員→椿野委員→小島委員

続きまして、職員の自己紹介をさせていただきます。

吉川主任→太田主任→大川司書→蛭名主査→新谷館長→丸毛課長

【役員を選任】

次に図書館条例第10条第1項に基づき、会長・副会長の選任を行いたいと思います。

(※条例により、委員の互選において、会長は舟橋委員、副会長は北川委員に決定した。)

では、会長・副会長が決まりましたので、ここからの議事進行を会長をお願いいたします。

【会長】

それでは会議次第に従いまして議事を進めさせていただきます。4の報告案件の(1)平成30年度北広島市図書館利用状況から事務局の報告をお願いします。

【事務局】

(1)平成30年度図書館利用状況について説明いたします。2ページ目をご覧ください。過去のオープンからの図書館の利用状況も上の方に掲載しています。

平成30年度につきましては、年度途中であるため、4月から1月までの数字を載せています。また昨年度との同じ月での比較を、下の方に参考として載せています。

市の人口が213人減少に対して、貸出数は全館で16,907冊減少しております。なかでも9月は6,705冊貸出が減少しておりまして、地震停電により、4日間臨時休館となりました。このような影響もあったことから大幅に貸出数に影響しているものと思われます。

全体的な利用数の減少は、北広島市の高齢化による利用状況の変化やインターネットなどのパソコン利用やスマホの普及による理由であると分析します。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

次に 3 ページ目の「2. AV コーナーの利用状況」についてですが、(1) の AV ブースの利用は、減少傾向にあります。AV ブースの利用者は 550 人、(2) のインターネット端末の利用は 368 人と減少が見られます。このあたりにも臨時休館による影響も反映していることも考えられます。しかしながら昨年までと同様に高い年代の利用が多く、絶え間なく利用されている状況となっています。

(3) の上映会の入場者数は昨年と同期間の比較で 426 人減少しています。本の貸出数が減っている状況と同様に、映像資料の利用を含めた AV コーナーの利用も数字では減少傾向にありますが、朝から変わらずに利用者が定着している様子となっています。

続きまして、「3. 予約処理の状況」についてですが、30 年度の 1 月末までの合計は 50,387 件となっています。昨年との 1 月末の数字を昨年度の同期間で比較していますが、30 年度については 979 件増加しています。貸出冊数が減っているのに反して、予約が増加していることから、棚から本を選ぶよりも借りる本を決めて、利用している方が多いことがわかります。WEB と携帯からの予約は、全体の予約件数の 46.8% となっており、約半数近くの方がいます。WEB 予約は、テレビで取り上げられた本、ベストセラーなどの本が人気となり、同じ時期に同じ本に集中している状況が見られます。

主な統計のみご報告させていただきましたが、そのほかにも高齢者図書宅配サービスやけ便や特集資料の展示などについても継続して行っています。

30 年度の最終的な統計がまとまりましたら、委員の皆様へ送付させていただきます。

そのほかの報告を少しさせていただきます。

先ほども少し触れましたが、9 月には、北海道胆振東部地震により、地震・停電による影響で 4 日間臨時休館となりました。このような大きな災害による休館等は、開館以来はじめての出来事でした。この期間にはフィールドネット事業の古本ばくりっこの開催も行っており、残念ながら開催中止となってしまい、ばくりっこは結局 2 日間しか開催することができませんでした。その後の開館時には、利用者の方から図書館被害の心配の声を多くいただきましたが、地震による被害等の影響はほとんどなく、棚から 1 冊の本も落ちることなく、耐震性に優れた施設であると再確認することができました。今後も開館時も含めて、いつ何が起こるかわかりませんので、日頃の職員の災害に備えた意識なども防災訓練などを通して、確認していきたいと考えております。

10 月には、開館した時から 20 年で本の貸出冊数が最も多かった家族をベストリーダー家族として表彰しました。該当者は 14,018 冊の貸出、3 名で利用していただいている白樺町在住のご家族で、10 月 10 日にベストリーダー認定証の授与を行いました。

また、フィールドネットも図書館開館と同時にスタートしていますので、設立 20 周年となりました。9 月 30 日に開館 20 周年の記念事業として芸術文化ホールと連携し女優の室井滋さん率いる「しげちゃん一座」を招へいし、ホールでトークライブの公演を行いました。また、12 月に 20 周年記念誌を発行いたしました。すでにお手元についているかと思いますが、委員の皆様にもお持ち帰りいただきたいと思っております。図書館とフィールドネットのボランティアとのつながり、事業の歩みなどがまとまっています。振り返ると 20 年、人と人がつながり、数々の事業を通して、交流しながらの図書館運営を行ってまいりました。重みのある記念誌となっておりますので、ぜひ目を通していただけたらと思っております。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

図書館の報告につきましては、以上となります。

【会長】

ただ今、事務局より平成 30 年度北広島市図書館利用状況に関する報告がありましたが、以上の説明に対し質問や意見等がございましたら、よろしくお願ひいたします。

【E 委員】

災害への備えについてですが、図書館の避難訓練の取り組みをお聞かせください。

【事務局】

こちらの施設では年 2 回避難訓練を実施しております。春の訓練では消防署も含めたものとなっております。

【B 委員】

9 月にあった地震は閉館時間ということもありこちらの施設では人的被害はありませんでしたが、もし日中に起きていたらどうだったのか考えると恐ろしく感じます。そういったことを含め今後こういった避難をするのか考える必要があると思います。

【事務局】

職員がまず避難誘導等を行いますので、今後も訓練を通して引き続き防災に対する意識を心掛けていきます。

【会長】

そのほかに意見がないようですので、(2) の平成 30 年度学校図書館利用状況について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

4 ページの平成 30 年度学校図書館利用状況は、市内の小中学校の学校図書館で貸出された冊数を年度別・学校別にまとめた表です。

上の表の小学校については、昨年度と比較すると、全体的には利用冊数が減少していますが、学校別で見ると利用が増えている学校もあります。通常の貸出冊数や長期休み前の貸出冊数の枠を増やすなど、各校の読書活動の取り組み方により増減が異なります。

また、学習内容が増えていることもあり、読書の時間を取ることが年々難しくなっているようです。ただ、豆次郎では図書館から巡回させている木箱に入った 40 冊の図書を各学級に 1 台ずつ配置していますので、それにより、統計に反映されていない部分でも、子どもたちはたくさん読書をしています。

続きまして、下の表の中学校については、昨年度と比較して全体的には利用冊数が増加しています。東部中については、改修工事により図書室を昨年度の 3 月から今年度 6 月まで閉室していたので、その間の図書室利用はできませんでした。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

中学校は、学校司書が配置されていることで、生徒のリクエストの要望に応えた選書を行ったり、購入できない図書については、公共図書館から借りたりなど細かく対応することで、読書好きな生徒が定期的に足を運ぶ流れができています。また、先生方が授業で使用したい図書を相談して購入することなども行っています。

次に、5 ページの平成 30 年度学校図書センターの取り組みについて説明いたします。主なもの 2 つになります。

1 つ目は先ほども少しお話ししました東部中学校の新図書室についてです。昨年度から行われていた工事で図書室も改修され、書架や貸出のカウンター、レイアウトが一新しました。6 月に学校司書と図書館職員が書架設置・配架・サイン作成等を行い、以前よりも図書の収蔵力が増し、生徒が利用しやすい図書室になりました。

次に 2 つ目は、きたひろブックキャラバンについてです。北広島市初となるブックキャラバンを 11 月 27 日に双葉小学校の体育館で開催しました。ブックキャラバンでは、北広島市図書館の図書を学校に持ち込んで貸出を行いますので、児童が学校図書館の蔵書以外の本と触れ合い、多様な本と出会う機会になりますので、読書への興味関心を高め、読書の機会を増やすイベントとして実施しました。

事前に、双葉小の全校児童に北広島市図書館の利用者カードを作ってもらいました。当日は、5 時間目の時間に 1～3 年生、6 時間目に 4～6 年生と分かれて、1 人 3 冊までの貸出を行いました。約 1,000 冊の児童書を体育館に敷いたゴザの上に、表紙が見えるように 1 冊ずつ並べ、子どもたちは、その本を自由に手に取って選びました。

キャラバンのルール説明が終わると、低学年はあっという間に本を選び終え、すぐに貸出の長蛇の列ができました。高学年はじっくり本を選んでいく様子が見られました。絵本や物語だけではなく、特に学習系や知識系の本がどの学年にも人気がありました。

貸出が終わった児童は、体育館の壁に寄りかかり、すぐに本を読み始める姿も多く見られました。また、読み聞かせボランティアのそらまめさんにも協力していただき、本を借り終えた児童向けに大型絵本の読み聞かせをしてもらい、こちらも多くの児童が真剣に聞き入る姿が見られました。

読書が好きな児童にも、図書室にあまり来ない児童にも、多くの図書に親しむ機会となりました。

双葉小では、ブックキャラバンを行ってみて、読書月間の取り組みとして、読み聞かせだけではなく、子どもたち自ら本を読む取り組みも良いねという意見が出ており、来年度も再び行うことが決まっています。

学校図書利用状況については、以上です。

【会長】

平成 30 年度学校図書利用状況に関する報告がありましたが、以上の説明に対し質問や意見等がありますか。

【A 委員】

北広島市内の小中学校の耐震化への状況はどのようになっているのでしょうか。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

【事務局】

耐震化は全て終わっております。

【B 委員】

きたひろブックキャラバンは来年度以降どのように考えているのでしょうか。

【事務局】

今回はモデル事業として双葉小で行いましたが、今後は全市内小学校でも行うことを考えております。

【会長】

そのほかに意見がないようですので、(3) の平成 30 年度新規・拡大事業の報告について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

地域まるごと読書支援モデル事業は、今年度の学校図書館活用事業の拡大事業として昨年 4 月より実施しました。これまで学校図書館活用事業では、先ほど報告した通り、小・中学校に対しての読書環境整備を中心に行ってきましたが、今回は、さらにその下の世代に掘り下げた、幼児期からの読書活動の推進を始めています。子育て世代の多い大曲地区をモデル地区として進めています。

地域まるごと読書支援を担当する司書のことを、まちなか司書と呼び、大曲分館に配置しています。まちなか司書の主な業務としては、小学校、保育施設への巡回と家読パック・こつぶの配本、土日は大曲分館業務、そして大曲地区で開催される地域イベントへの協力などを行っております。

まず、小学校巡回配置ですが、こちらは大曲小学校と大曲東小学校に対し、隔週で巡回配置しています。活用状況としましては、学校ごとの整備状況や利用状況など、統計上の数値からでは判断できない学校図書館の様子がよくわかるようになりました。

大曲小学校では担当の先生の企画により、図書委員によるお薦めの本と児童と一緒に写真で写し、紹介文を書いたものを本と一緒に展示しています。これまでは書架の上の方に掲示していたこともあり、視線がそこまでいかず活かされていませんでした。今回は図書館の中心にコーナーを設置し、本と一緒に置いたことにより、沢山の貸出がありました。

まだ、1 年のサイクルを経ていないので、学校の動きをつかめていない部分はありますが、課題として、打ち合わせ時間を取ることが難しいので、以前西部小学校で行っていた、連絡ノートによる打ち合わせを検討しています。

次に大曲東小学校の展示写真がありますが、こちらは昨年度ポプラ社で企画した小学生が選ぶこどもの本総選挙で選ばれた本を集めて展示したものです。ベスト 10 の内で、所蔵があったのは 1 冊で、他は図書館からの貸出となりました。その後、学校で購入され、現在はその多くが貸し出されている状況です。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

このように、少しずつではありますが、小学校でのまちなか司書配置による効果が見えてきています。

次年度は一步踏み込んだ取り組みを積極的に展開していければと考えます。

次に保育施設巡回について報告いたします。

小学校勤務の後、分館に戻り、一日一園巡回をしています。学校の実施時期をずらして段階的にスタートし、9月25日より実施しました。

巡回時には、絵本の読み聞かせを行い、また隔週で家庭内での読書活動の推進としての取り組みである、家読パック、こつぶの配本を行っております。

読み聞かせについては、子どもたちがとても楽しみに待っていてくれているようです。写真からも伝わってくると思いますが、身を乗り出して、お話を聞いてくれて、まちなか司書もとてもエネルギーを使うけれども、やりがいを感じとても楽しく読み聞かせを行っているようです。想定以上の需要の高さを感じています。日によっても園によっても、子どもたちの雰囲気は違うので、その日の子どもたちの様子をみながら、読む本を選んでいきます。

次にこつぶについてですが、こつぶの概要につきましては別紙チラシを参照ください。

図書館には行きたいけれど、図書館に行く時間がとれないご家族に合わせた本を選び、パックにしたものを専用バッグに入れて貸し出しするものです。受け渡しを保育園で行い、送迎時にこつぶを持ち帰ることができます。子どもの読書活動推進計画の一つでもあります、家庭での読書推進として、家読の取り組みを始めることができました。

大曲地区の保育園・こども園に通われている世帯数は242世帯に対し現在は60名の登録となっており、約25%の利用率となっています。

また、こつぶには、家族枠というものがあり、2冊を10種類のジャンルの中から選ぶことができますのですが、その内訳としては、1冊は子どもに、もう1冊は自分の楽しみというご家庭が多いようです。平成31年1月31日現在までのこつぶ貸出冊数は1,484冊となっています。

まちなか司書が巡回する時間帯とお迎え時間がなかなか合わないため、こつぶはほぼセルフによる配本となっています。

こつぶにつきましては、初めての取り組みということもあり、試行錯誤しながら進めているところではありますが、今後も増えることが予想されることから、ある程度のシステム化を進めていきたいと考えています。現在の課題として、本の持ち運びに大変苦慮している状況にあるため、次年度の登録更新と利用アンケート調査を実施中です。今後、アンケート結果をまとめて、家読の様子やこつぶの成果を検証していきたいと思っております。

以上で地域まるごと読書支援モデル事業の報告を終わります。

【事務局】

平成30年度の新規および拡大事業について説明させていただきます。

図書館は施策としては2つ持っており、1つは図書館の運営全般に対する施策である図書館サービスの充実、もう1つは学校図書館を含む子どもの読書活動の推進に特化した施策です。施策ごとに、今年度新たに始めた事業やイベントなどについて若干詳しく説明してまいります。まず、施策18図書館サービスの充実からです。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

この施策の内には、本来であれば音訳機器更新整備事業のみが新規拡大事業で、前回の協議会でも説明したのですが、年度途中で臨時で措置された防衛省の補助金を活用した AV 機器更新整備事業を急ぎよ実施することになりました。また、図書館フィールドネットの事業として財団から助成金を受けて進めた郷土資料デジタル教材化事業があり、こちらは図書館予算とは直接関係がないのですが、サービスの充実に大きく関わる新規事業となったので、報告します。

音訳機器更新整備事業につきましては、すでに機器の購入が終わり、現在、運用の準備を進めておりますが、機器の使用についてもろもろの研修が必要であったり、現状のサービスを受けておられる状態からの切り替えの手順など、思いのほか検討課題が多く、多少時間をかけてでも慎重に運用に近づけていく考えです。また、今回、画面を作っておりませんが、AV 機器更新整備事業につきましては、急ではあったのですが、900 万円ほどの予算が措置されまして、開設当初からの視聴覚機器を中心に更新を図ることができました。今、みなさんがお座りになっている椅子も含め自前で少しずつ更新を行ってきているのですが、今回は視聴覚機器の心臓部とも言える映像や音声の送出機器を入替え、長寿命化を図り、かつ画面も綺麗に出せるようになったのはありがたいところです。3 月 18 日に入替えを行い、19 日から運用というスケジュールとなっております。

そして、3 番目の郷土資料デジタル教材化事業につきましては、次の施策の子どもの読書活動推進にも該当する事業で、全国でもあまり先例のない事業でもあるので若干詳しく説明させていただきます。

この事業は、大きくは 2 段階の事業となっております。まず、北広島の今と昔について書かれている刊行物をデジタル化して、インターネット上で公開するという事業です。こちらは ADEAC という専用の公開ページがありまして、そこに「北広島遺産ハンドブック自然遺産・歴史遺産」「きたひろ昔話」「きたひろしまふるさと採話集」などの資料が掲載され、全国の人が自由に閲覧できるようになります。今回、まだ公開前のものですが特別にお見せしたいと思います。

こういった資料をデジタル化して WEB 上に公開するというのは多くの事例があり、それほど珍しいものではないのですが、この公開したデータを使って郷土学習の教材をつくらうという事業は全国的に見ても初めてと思える事業です。

まず、基本は、小学校で使われている社会科副読本のデジタル書籍化で、副読本「北広島」を各学校に配備されているタブレットで児童が見れるようにしました。まだデモ版くらいのものでありますが、協議会委員の皆様には実際に見ていただければと思います。

具体的な説明の部分につきましては、画面と合わせて説明をするので、議事録からは省かせてください。

このように副読本がデジタル化され、そこに多くの先生や図書館員・学芸員が附属の情報を増やすことによって、児童の郷土学習がより厚みを増し、生きた学習となることが、このシステムのねらいです。今後、教員の方々の意見なども伺いつつ、実用に向けて取り組んでいきたいと考えております。

一般公開部分は、3 月 2 日にオープンとなります。教材の方は、まだまだデモ版くらいのお披露目となりますが、ご都合が合えば、講演会にもご参加ください。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

次に、子どもの読書活動推進ですが、上の 2 つまでは、担当それぞれの報告の中で紹介させていただきましたので、割愛して、一番下の「この本だいすき！」WEB 掲載について、若干、報告をさせていただきます。

西部小学校の図書館を拠点にボランティア活動をしている「輪厚王様文庫」さんが続けている「この本だいすき！」という子どもたちによる本の POP 紹介が、この度まとまって冊子になりました。また、たまたま今年度に入って、図書館サービス向上委員会（略称りぶしる）からホームページ掲載の依頼を受け、冊子の中の数百点を WEB 掲載することとなりました。

子どもたちが互いに本を紹介しあうような大きな流れができると、より子どもの読書活動も活性化に向かうのではないかと考えています。

中学校には司書が巡回しており、小学校も西部・大曲地区については司書がいる環境ができてきましたが、他の地区の小学校については、まだ児童の読書意欲を活性化させる仕掛けが足りないと考えており、全地区の小学校を対象としたイベントができないものかと検討中です。

今年度は、年度途中から立ち上がってきた事業や、他機関からの依頼や要請で動いた事業も多く、とりあえず走らせるのに精いっぱい、次年度に課題を持ち越している部分もあると思います。まずは、それらをしっかりと定着させていくようにします。

以上で、説明を終わります。

【会長】

平成 30 年度学校図書利用状況に関する報告がありましたが、以上の説明に対し質問や意見等がありますか。

【A 委員】

大曲東小の図書室ですがカーペットが敷かれており、靴を脱ぎ家で本を読めるような環境になっていますが他の小学校でも同じような学校はありますか。

【事務局】

東部小学校が同様にカーペット敷きで靴を脱いで入る仕様になっております。

【事務局】

最近の流れとしては上履きのまま入れる仕様が主流になってきています。靴を脱ぐことがひと手間です。図書室に来ない一因になることが考えられるからです。

【会長】

そのほかに意見等ございますか。意見がないようですので、(4) の平成 30 年度予算案の概要について事務局から説明をお願いします。

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

【事務局】

平成 31 年度北広島市図書館及び学校図書センターの予算案概要を説明いたします。

まず始めに、この予算案の概要は、今後、平成 31 年第 1 回議会の議決を受けて平成 31 年度予算として決定されることとなります。現段階での予算案であることをご承知置き下さい。

それでは、図書館に関する予算案を説明させていただきます。

報酬は、図書館協議会委員と非常勤職員の報酬で、増減理由は、職員の通勤費の増額によるものです。

共済費は、非常勤職員の社会保険料の費用となります。

報償費は図書館利用モニターへの謝礼金です。

旅費は本会議に関する旅費と、職員の旅費となっております。

需用費は、主に本館と 4 地区館の図書購入費です。増減理由は消費税増税が予定されるためと図書の装備代が今後 1 冊 50 円増額するためです。

役務費は、郵便料、道新記事、官報等のデータベース利用料です。増額理由は、同様に消費税増税が予定されているためと郵便料の値上げによるものです。

委託費は、主なものとして図書館窓口等の業務委託費になります。増額理由は平成 31 年度のシステム更新にあたり新たにネットワークの調整の委託をかけることによるものです。

使用料及び賃借料については、図書館システムなどに関する借上料です。増額理由はシステム更新料が増額しているためです。

備品購入費につきましては、平成 31 年度では予算配当はありません。

負担金補助及び交付金ですが、交付金に関しては市民との協働による図書館運営を進めるための、北広島市図書館フィールドネットへの交付金になります。負担金としては、日本図書館協会、北海道図書館振興協議会、石狩管内図書館協議会の会費となります。

公課費についてですが、移動図書館車の重量税となっており、13 年目を過ぎ、増額となっております。

合計すると、平成 31 年度の図書館運営費は 106,946 千円となります。

続きまして、学校図書センターに関する予算案を説明いたします。

需用費は、小・中学校の図書購入費と、学校図書室の新聞購入費などです。予算の減額に見えますが平成 30 年度にて寄付があり、補正されているので実質は増えていることとなります。

役務費は、学校巡回図書「豆次郎」の運搬費用で、年 3 回実施いたします。

委託費は、学校図書センター運営業務と学校図書館支援業務の委託費であり、学校図書センターの委託職員 1 名と学校司書 3 名、まちなか司書 1 名となっております。人件費の増加により予算増となっております。

使用料及び賃借料は、先ほど説明しました図書館システムに関する学校図書ネットワークシステムの整備です。

合計すると、平成 31 年度学校図書センター予算額は 19,778 千円となります。

最後に図書館の予算ではなく芸術文化ホールの予算で行う事業なのでここに記載されていないのですが、来年度、図書館全ての照明を LED に換えるため、借上委託の契約を結ぶ予

平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

定ですのでご報告いたします。

平成 31 年度図書館予算概要については以上となります。

【会長】

ただ今、事務局より報告がありましたが以上の説明に対し質問や意見等がございましたら、よろしくお願いいいたします。

【会長】

続きまして、5 の質疑・意見交換ですがございましたら、よろしくお願ひします。

【G 委員】

平成 31 年度のきたひろブックキャラバンの募集はどのように行いますか。

【事務局】

まだ募集はしていませんが、校長会・教頭会を通して募集をかける予定です。

【会長】

他に何かご質問等がありますか。

【会長】

6 のその他ですが、ございましたら、よろしくお願ひします。

【閉会：会長】

ないようですので以上で議事は全て終了になります。

これもちまして、平成 30 年度第 1 回北広島市図書館協議会を閉会させていただきます。

会議録署名委員
